

じもとホールディングス連結業績

(単位:百万円、%)

	26年9月期	27年9月期	前年同期比	増減率
経常収益	21,242	21,889	647	3.0
経常利益	3,441	3,258	△183	△5.3
親会社株主に 帰属する 中間純利益	3,450	3,293	△156	△4.5

平成27年9月期の連結業績は、経常収益が218億89百万円、経常利益が32億58百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は32億93百万円となりました。

きらやか銀行・仙台銀行(単体)の2行合算

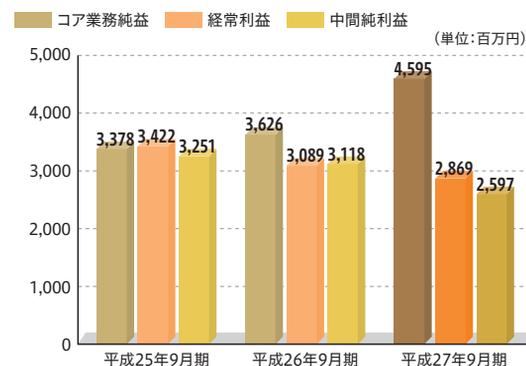
(単位:百万円、%)

	2行合算			
	26年9月期	27年9月期	前年同期比	増減率
経常収益	20,772	21,185	412	1.9
業務粗利益	16,061	17,205	1,143	7.1
経費 (除く臨時処理分)	12,751	12,902	151	1.1
業務純益	3,521	4,950	1,428	40.5
コア業務純益	3,626	4,595	969	26.7
経常利益	3,089	2,869	△220	△7.1
中間純利益	3,118	2,597	△520	△16.7
貸出金	1,555,787	1,646,036	90,249	5.8
預金等 (譲渡性預金を含む)	2,448,932	2,436,851	△12,081	△0.4
有価証券	790,054	723,022	△67,032	△8.4

2行合算の経常収益は、前年同期比4億12百万円増加の211億85百万円となりました。

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が増加したことや物件費の削減に努めたことにより、前年同期比9億69百万円増加の45億95百万円となりました。

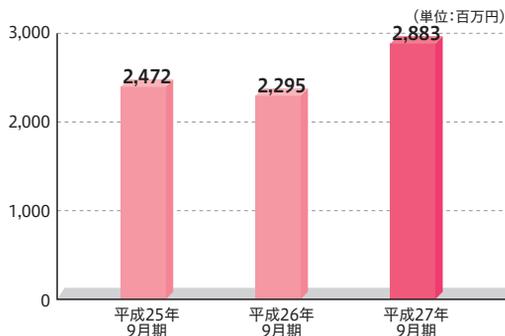
経常利益は、前年同期比2億20百万円減少の28億69百万円、中間純利益は前年同期比5億20百万円減少の25億97百万円となりました。



業績ハイライト(単体)

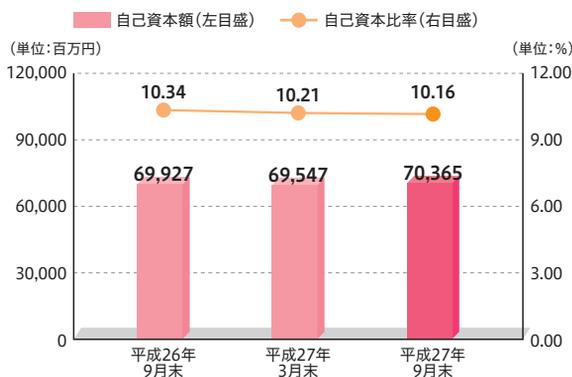
コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が増加したことや、更なる経費削減に努めた結果、物件費が減少したことなどから、前年同期比5億88百万円増加の28億83百万円(増減率25.6%)となりました。



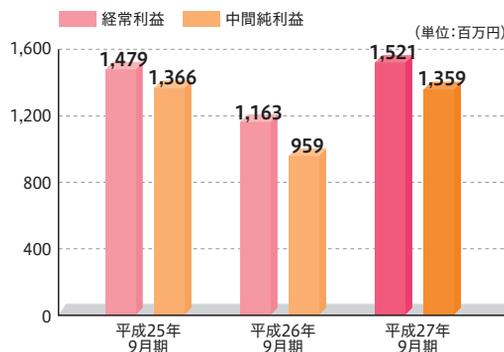
自己資本比率の状況

自己資本比率は、中間純利益を13億59百万円計上し、自己資本額(分子)が増加しましたが、貸出金残高の増加に伴いスクアセット(分母)が増加したことなどから、平成26年9月末比0.18ポイント低下の10.16%となりました。



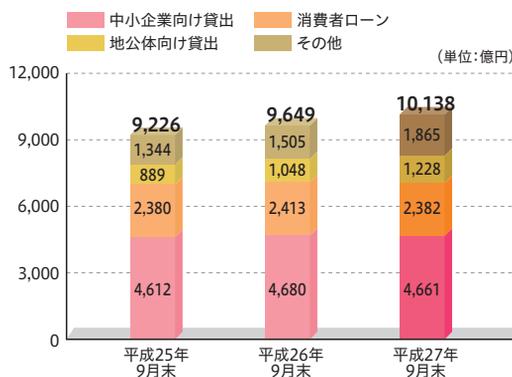
経常利益・中間純利益の状況

経常利益は前年同期比3億58百万円増加の15億21百万円、中間純利益は前年同期比4億円増加の13億59百万円となりました。



貸出金の状況

貸出金残高は、市場性ローンや地方公共団体向け貸出が増加したことなどから、平成26年9月末比488億91百万円増加の1兆138億4百万円となりました。

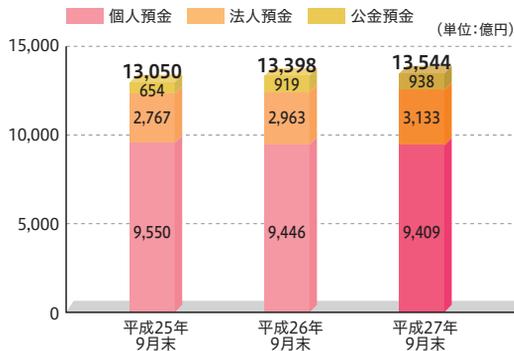


用語解説

■ **コア業務純益** 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益のことを指します。

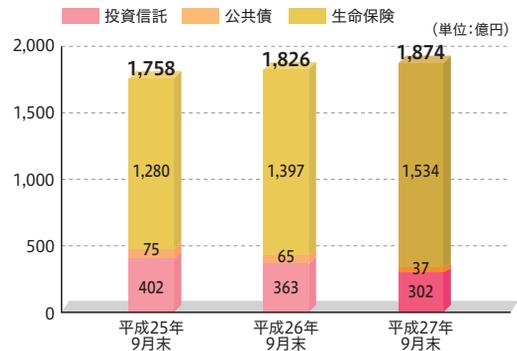
預金(譲渡性預金を含む)の状況

預金残高は、個人預金が減少したものの、法人預金及び公金預金が増加したことから、平成26年9月末比146億円増加の1兆3,544億3百万円となりました。



預かり資産の状況

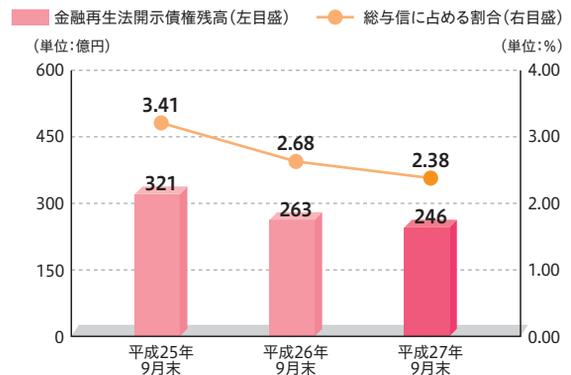
預かり資産残高は、安定志向にあるお客様ニーズの取込みなどにより生命保険残高が増加したことなどから、平成26年9月末比47億41百万円増加の1,874億15百万円となりました。



金融再生法開示債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の残高は、平成26年9月末比17億50百万円減少の246億22百万円となりました。総与信額に占める割合は、平成26年9月末比0.30ポイント低下の2.38%となりました。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



■ 経常利益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
 ■ 中間純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

業績ハイライト(単体)

コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が増加したことや物件費が減少したことなどから、前年同期比3億80百万円増加の17億11百万円(増減率28.6%)となりました。



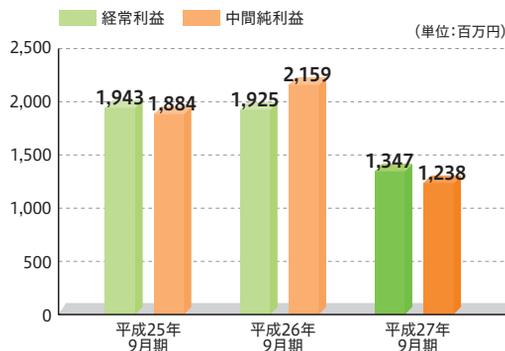
自己資本比率の状況

自己資本比率は、中間純利益を12億38百万円計上し、自己資本額(分子)が増加しましたが、貸出金残高の増加に伴いリスクアセット(分母)が増加したことなどから、平成26年9月末比0.45ポイント低下の10.10%となりました。



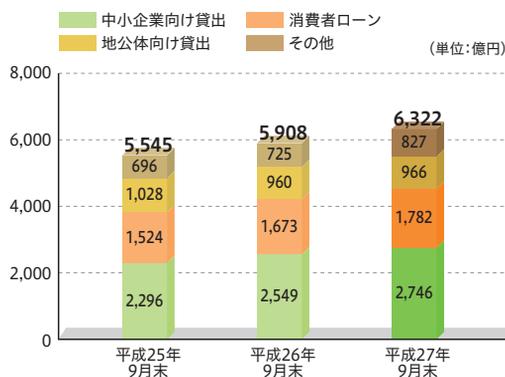
経常利益・中間純利益の状況

経常利益は、前年同期比5億78百万円減少の13億47百万円、中間純利益は、前年同期比9億21百万円減少の12億38百万円となりました。



貸出金の状況

貸出金残高は、復興支援に係る様々な資金需要への対応により、中小企業向け貸出や住宅ローン、個人ローンが増加したことなどから、平成26年9月末比413億58百万円増加の6,322億31百万円となりました。

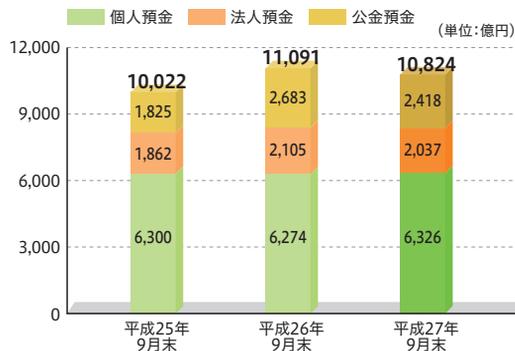


用語解説

■ **コア業務純益** 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益のことを指します。

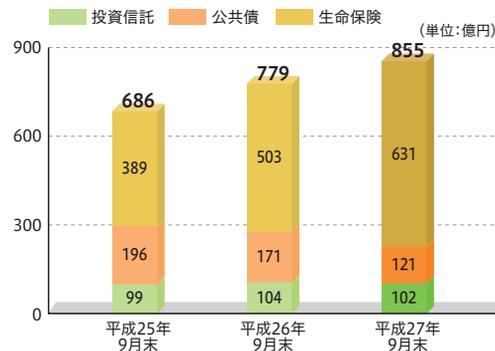
預金(譲渡性預金を含む)の状況

預金残高は、個人預金が増加したものの、法人預金や公金預金が減少したことなどから、平成26年9月末比266億81百万円減少の1兆824億47百万円となりました。



預かり資産の状況

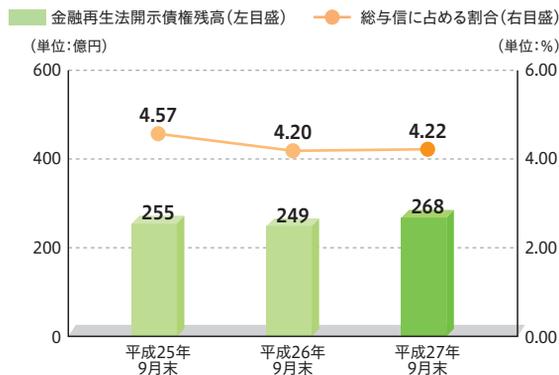
預かり資産残高は、お客さまの保険運用ニーズが依然として高く生命保険残高が増加したことなどから、平成26年9月末比75億26百万円増加の855億19百万円となりました。



金融再生法開示債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の残高は、平成26年9月末比19億7百万円増加の268億81百万円となりました。総与信額に占める割合は、平成26年9月末比0.02ポイント上昇の4.22%となりました。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



■ 経常利益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
 ■ 中間純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。